

<活動の概要>

個人研究に関しては、「エコロジー領域における芸術的アプローチの模索」について、キュラトリアル実践をともなうて継続している。本主題では「共感論」を基軸にした新たな理論的視座を展開し、その研究成果の一部を学会にて発表し、高く評価された。また、2022年に学会のシンポジウム登壇者として報告した「エコロジーの美術表現と美術展」について、さらなる調査を進め、「未来に残したい授業」のようなメディアに向けて、共感論研究と美術展実践を共有した。

学内プロジェクト研究である「タイムベースド・メディア・プロジェクト」では、IAMAS ARTIST FILE #09「方法主義芸術：規則・解釈・(反)身体」の展示の企画者として、展覧会構成・運営を担当し、展示は学内外の高い評価を得た。関連イベントとしての「岐阜おおがきビエンナーレ 2023 方法/Method」のディレクターを務め、「方法主義」および「方法」同人で当学教員の三輪眞弘の芸術についての研究成果をIAMAS 紀要評論としてまとめた。

<学内での活動>

**岐阜おおがきビエンナーレ 2023・IAMAS ARTIST FILE #09**

今年度は、岐阜おおがきビエンナーレと IAMAS ARTIST FILE の両イベントで「方法主義」をテーマに互いに連携した取り組みを行い、総合ディレクターを務めた。10月11日開幕した IAMAS ARTIST FILE #09「方法主義芸術：規則・解釈・(反)身体」(岐阜県美術館)では外部作家として足立智美・中ザワヒデキ両氏を招喚し、IAMAS 教員の三輪眞弘・松井茂の四名の作家によるグループ展を実現した。県内外から訪れた多くの鑑賞者に向けて、2000年代初頭の芸術運動「方法」に今日着目する意義を伝え、好評を得た。

関連イベントとして展覧会会期中の岐阜県美術館にて「三輪眞弘作品の再演コンサート」「方法作品の再演コンサート」を開催した。特に、「方法作品の再演コンサート」では、パフォーマー・演奏者として、「タイムベースドメディア・プロジェクト」メンバーおよび学生有志の協力を得て、盛況なクロージングイベントとなった。

岐阜おおがきビエンナーレは「方法/Method」をテーマとし、一日目に「方法」をテーマとした中ザワヒデキ氏による基調講演と関連シンポジウム、二日目に吉岡洋氏・岡田暁生氏が三輪眞弘氏と方法についての哲学的考察を深める鼎談、最終日に篠原資明氏と松井茂氏による方法詩人対談および「方法マシン」同窓会を企画した。それぞれのシンポジウムは特異性を持つと同時にテーマである「方法」で結ばれ、充実した四日間となった。

**研究プロジェクト (タイムベースドメディア・プロジェクト)**

今年度はプロジェクトの活動の一環として展覧会 IAMAS ARTIST FILE



【大久保美紀】共感と芸術 本日の想像力とは？「共感」を野生物まで拡張し、エコロジーを思考する  
未来に残したい授業



#09 に取り組んだ。芸術運動「方法主義」の活動の趣旨と作品について理解を深め、一部の展示作品の再制作について学生と教員が協働して取り組んだ。

本展覧会の成果は図録にまとめられ、企画者として「展覧会について」を執筆し、全体の編集を担当した。

## 個人研究

### (1) 共感論研究

エコロジー問題に対峙する芸術表現がその主題に取り組む上で足枷になっている人間中心主義思想の枠組みを乗り越えることに貢献する〈エコロジー美学構築〉に取り組む。私たちとそれを取り巻くものの関係性を再構築するため、共感論を再考する。エマヌエーレ・コッチャの哲学について、感情移入論に立ち戻り新たな解釈の可能性を模索。

### (2) 技術論研究

上述の共感論研究と深い関係がある。高度に発展したテクノロジーがかつての人文科学的地の領域（人間の意識・文化的身体・世界構成）に深く入り込んでいる状況において、「環世界/umwelt」や「浸り/immersion」概念を領域横断的に解釈し、E.コッチャにおける新たな技術論に着目して、広義のエコロジー問題を思考する技術哲学を研究。

### (3) テクノロジーと身体性研究（三輪眞弘音楽芸術研究）

三輪眞弘音楽芸術におけるテクノロジー思想と人間の関係性に着目し、三輪眞弘の「逆シミュレーション音楽」における「合成された身体」に新たな解釈を加える。

### (4) 現代社会における毒の重要性研究

2018-2022年に連携研究者として取り組んだ「現代社会における毒の重要性研究」について

## IAMAS ガムランアンサンブルの活動サポート

IAMAS ガムランアンサンブルに教員・演奏者として参加し、各回の練習と本年度の三度の演奏機会（オープンハウス、岐阜おおがきビエンナーレ、卒業制作展）への活動をサポートした。取り組みでは、インドネシアの伝統音楽であるガムラン音楽について、その演奏体験と知識深化を通じて、メディア表現との交差点を模索している。

## 作品発表

●清流の国ぎふ芸術祭 Art Award in the CUBE 2023 入賞

《アンブレラ種》 Florian Gadenne + Miki Okubo

2023年4月22日～6月18日に岐阜県美術館で開催されたAAIC2023にユニットとして入賞し、本展覧会のための新作《アンブレラ種》（インスタレーション, 2023）を展示した。エコロジー問題に焦点を当てた本作品は、絵画（922\*1224mm, 3点）・生物彫刻・3つのマケット（切り崩される山、駐車場に残された伝統集落、プラスチック片を引きずって航海する船）・外壁絵画から成る。会期中は具体的指摘を含むミクストメディアインスタレーションとして、学校訪問や家族訪問の子どもたちの高い関心を集めて評価された。



## キュレーション

●「ファルマコンの再生：生の祭壇」（2023.11.02-11.19）@アトリエみつしま、京都

2017年来、関西地方で継続してきた展覧会シリーズは、フロリアン・ガデンと堀園実の二人展を開催し、それぞれが取り組んできたエコロジーの主題について、映像インスタレーション・彫刻・絵画による作品展示により多角的な視点を鑑賞者に向けて提案した。

●公益財団西枝財団による「瑞雲庵における若手創造者支援事業」2024年春季「遍在、不死、メタモルフォーゼ」採択

京都市北区に位置する瑞雲庵にて、キュレーターとして提案した展示プランが採択され、2024年4月27日（土）から5月26日（日）まで開催予定の展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」に向けて準備を進めている。

## 著書・学会発表・研究会

- 大久保美紀「芸術鑑賞における「共感」—メタモルフォーゼの概念を手がかりに」第43回日本記号学会全国大会 2023年6月17日
- 大久保美紀「エコロジーを思考する芸術表現—より豊かな〈美的共感〉のための試論」美学会第74回全国大会 2023年10月15日
- 大久保美紀「「方法」と「AI芸術」における非／身体」人工知能美学芸術第47回研究会 2023年11月11日
- 大久保美紀「三輪眞弘における〈死なないための音楽〉：身体を合成する」情報科学芸術大学院大学紀要第14巻, pp. - . 2023.3
- 大久保美紀（編集）「岡田暁生・三輪眞弘・」情報科学芸術大学院大学紀要第14巻, pp. - . 2023.3

#### その他、学会活動

- 日本記号学会
- 美学会

#### その他 社会活動など

- 岐阜市文化芸術推進審議委員
  - 任意団体 art-sensibilisation 代表
  - 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award in the CUBE 2023 ワークショップ  
講師「大きな生き物・小さな生き物：視点を変えると面白い」
-